

俄々羅尾城

《高宮町来女木》

【登城ガイド】  
標高/390m、比高/100m  
史跡指定/未指定  
城主/不明  
所要時間/東山麓から30分



俄々羅尾城遠望(南側より撮影) 周辺位置図

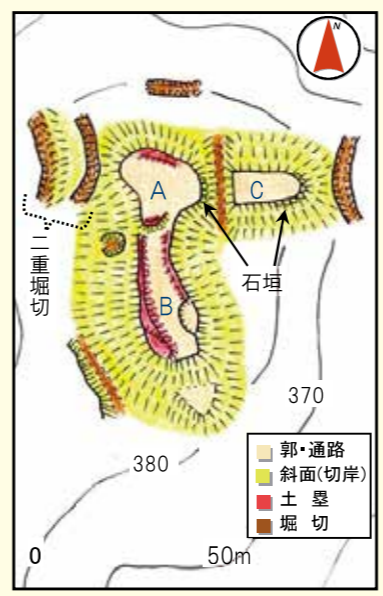
自然の山の中にある城跡では様々な動物や虫に遭遇します。今回は城跡への道中でカラスの大群に遭遇し、さらに城内ではスズメバチの巣と鉢合わせました。秋から冬は城歩きには最適ですが、山中は危険がいっぱいです。装備や服装など準備は念入りにして登りましょう。

**立地：**高宮町来女木と美土里町北の境界近く、俄々羅尾山北東の尾根上に築かれています。集落の背後の山上にあり、城跡からは北と東方向が良く見渡せます。

**歴史：**江戸前期の「高田郡村々覚書」に「かからお城山」とあり、以後、江戸時代の主な地誌類や絵図にも記載されています。城主等については不明ですが、大正期の「高田郡誌」には「岩崎久郎右衛門通修」の居城とあります。来女木は古代の「訓寛郷」がその地名の由来で、戦国期には「くるめ木」と記され、史料上から永享4(1531)年には毛利元就の支配下であったことがわかります。しかし、それ以前ははつきりとしていません。

**城跡：**現在は樹木に覆われ荒れていますが、山城としての要素が凝縮された非常に見所の多い城跡です。規模は周辺の城跡と比べても標準的で、郭Aを中心として南に郭B、東に郭Cを配置し全体としては東南方向を向いています。AとBの外縁には土塁が巡り、また、城の周囲には確認できただけで6本もの堀切が残ります。さらに、AとCの斜面には一部に比較的大きな石で積まれた石垣があります。

**考察：**規模に対して過剰ともいえる堀切、そして土塁が入念に配置されていることから、軍事的緊張の高さがうかがえます。また、戦国時代の城では稀な石垣も築かれており、この集落の有力者の城には見えません。またこの城の背後(北及び西側)現美土里町域)は高橋氏の勢力圏であったことや、近隣の高橋方の城と軍事性の高い構造が似ていることから、毛利氏の支配前に高橋氏に関係した城であった可能性があります。



俄々羅尾城略測図(作図 秋本哲治)



Cの石垣(南側より撮影)

シリーズ「お城拝見!」第五十四回

安芸高田市歴史民俗博物館  
学芸員 秋本哲治

編集後記

紅葉の季節、車で走っていても山々は赤や黄色に染まっています。市内にも紅葉の名所がいくつもあり、甲田の唯称庵跡は特に有名で多くの方が訪れます。

吉田では郡山公園が綺麗です。観光客も多くないのでゆっくり見ることが出来ます。よく晴れた昼頃、林の中の歩道に入り、太陽の方を見ると、紅葉と太陽が重なり光輝くような紅葉をみる事が出来ます。(森本)

今月号は吉田高校と向原高校の生徒の皆さんに表紙を飾っていただきました。自分はまだまだ若いと思っても、高校生を見ると、その元気にいつも驚かされます。快く取材を受けていただき、ありがとうございます。(田村)

今月の表紙

「安芸高田市のどこが好き? どうしたい? どうなってほしい?」という問いかけに対して、吉田高校、向原高校各4名の生徒が自分なりに考えた答えを紙に書いてくれました。

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/

安芸高田市  
どこが好き?  
どうしたい?  
どうなってほしい?

(今月の主な内容)  
2~3  
第2次  
安芸高田市総合計画

地産地消  
まちおこし

毛利元就  
ゆかりのまち

子どもと高齢者  
に優しいまち

帰りたくなる  
まち

神楽で  
まちをPR

みんなで助け  
合えるまち

安心して  
住みやすい町

スポーツを  
活かした  
まちづくり